

特集 SPECIAL FEATURE

環境と向かい合う

新世紀に入ってにわかにクローズアップされてきたのが「環境」という言葉です。しかし、各人が抱くイメージも様々であるように、建築の実務にかかわる者にとって、取り組むべきテーマは限りなく存在するといっても過言ではありません。それでは、OBの皆さんはどのように環境と向かい合っているのでしょうか。現状を報告していただきます。

ボリビアでの土を使った識字教室建設

薩田 英男(部13期)

薩田建築スタジオ 主宰

一昨年の初めに教育関係の友人と数名ではじめた識字教室建設のボランティア活動を報告します。活動場所は南米ボリビアのコチャバンバ市郊外のティキパヤ村です。「識字」とは聞き慣れない言葉ですが文字を読み書き出来る能力のことです。ボリビア全土では5人に一人弱の割合で公用語であるスペイン語が読めません。そのため就労機会を逸したり人権侵害を受けたりもしています。

村びとに識字教育の普及活動をしている現地NGO



学び舎一棟目の遠景

築理会ではホームページを開設しています

URL=<http://www.chikurikai.org>

掲示板やフォーラムなど、積極的な参加をして、ご活用ください。また、ご自身のHP等へのリンク希望や情報提供、その他築理会活動全般へのご意見も募集しています。各委員会へのメールアドレスもごさいますのでご利用下さい。

築理会報もアップされていきますので、こまめなチェックを！

(インファンテ)に協力し、施設の建設支援をしています。40名程度収容の楕円形の教室を中心に列柱が取り囲む形の建物です。屋根はユーカリ丸太組み、地元の土で焼いたスパニッシュ瓦を載せました。建物の特徴は現地の構法である「日干し土ブロック」を改良し住民自らの手で建設することです。こうした国際支援では往々にして住民の依存体質を助長してしまうことが多いと聞きます。私たちの提案は「自分達の問題を自分達の力で解決する」ために土地の風土資源と構法を最大限生かしローコストでエコロジカルな「土の学び舎」を建設することです。とは言っても伝統的な土の建築には強度、精度、衛生面の問題があります。一つには古い民家では屋根や土の壁に風土病であるシャーガス病を引き起すピンチュウカ(カメムシの一種)が生息しやすいことです。その対策として日本の伝統左官である生石灰を土に混ぜる技法を用いました。日本の左官職人の協力も得てブロックづくりの技術指導ワークショップを数回開催しました。(詳細は新建築2000年11月号に掲載)

「日本からきてなぜ土なのか。」という当然な疑問に答えながら「土の建築」の良さを住民に理解してもらい建設を進めることに時間を要しました。

今年理科大を卒業した高橋慎一郎君や山本浩二君の協力もえてようやく今年5月に一棟目が完成し、現在二棟目建設に向けて動き出しています。会では資金、人的協力を募集していますので興味のある方の連絡をお待ちしています。

「識字教育のための学び舎づくりを支援する会」ホームページ

<http://www15.u-page.so-net.ne.jp/ba2/momosuke/manabisha.htm#ホーム>



住民参加による建設風景

都市の森・森の庁舎

広谷 純弘 (部15期)
建築研究所アーキヴィジョン

私は現在、福島県郡山市に建設予定の福島県合同庁舎の設計に携わっています。

敷地は約3haで、隣接地には北川原温氏の設計によるビッグパレット(見本市会場)がすでに完成しており、周囲の民有地と併せて再開発事業が進められています。

都市の森

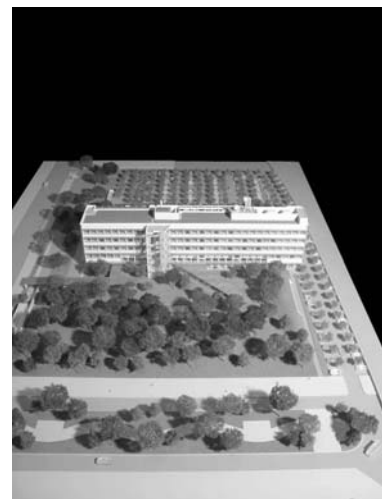
私共が、この計画において最も強く提案していることは、「都市の森」というコンセプトです。これは敷地の約半分1.5haに雑木林のような自然の森を再現しようとする試みです。もちろん地面は舗装されずに土と草で覆われていますし、鳥が棲める植栽構成や水空間が計画されます。また、メンテナンスも、定期的に植木の手入れを行うのではなく、自然の発育を見ながら最低限のサポートに押えられます。現在、都市開発が行われて新しい都市が生まれると石などで舗装された広場が出現し、そこには樹木や水空間やオブジェが配され、都市空間に豊かなコミュニケーションの場を提供してくれます。私共の提案はこの広場を否定するものではありません。広場が都市におけるランドスケープの一つの地位を確立した現在、これと共存するもう一つのランドスケープが必要と考えます。それはより環境に貢献するものであるべきです。「都市の森」は、もちろん散策を楽しむことも出来ますが、都市に存在すること・・・そこに在ることが重要な意味を持ちます。私共は将来都市空間に「都市の森」が点在し、そこを鳥が回遊することによって都市空間なりの自然系が確立されると考えています。

森の庁舎

「都市の森」に屋上緑化・駐車場の植栽を加えると、敷地の約3分の2が緑化されることとなります。この緑豊かな空間に計画される庁舎は、建物の周囲の緑と連



続性の高い建築として計画されます。庁舎の建築は、エントランスにアトリウムなどを設けてアメニティーを確保するのではなく、一般階の階高を高くとり、執務空間自体を豊かな空間として計画します。また平面計画は、東西に長く伸びるシンプルな形状



で、西日を避け、南北の広い開口から自然採光を十分に取り入れるとともに、庁舎のどこからも外部の緑が楽しめる「森の庁舎」を実現するように計画されます。

地球環境を救う建築

黒岩 哲彦 (部16期)
黒岩哲彦都市建築設計室

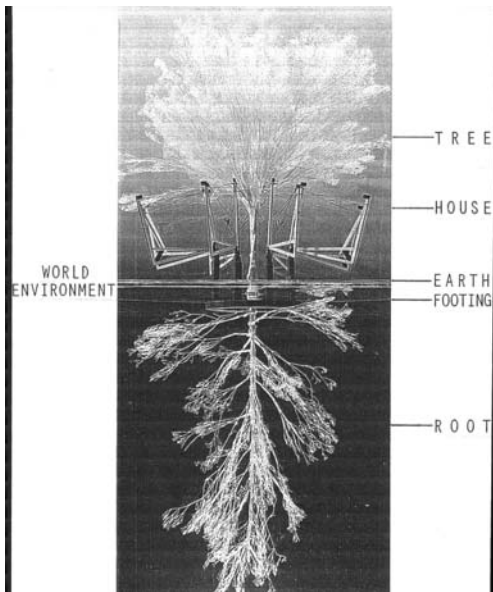
国内では、建築計画の目標が地球環境の改善にあるという意識はまだ低い。しかし、海外に出るとそうした意識をもつ人と語りあうことが多くなってきました。9月にもドイツで開かれる世界雨水会議に招待されています。地球環境の改善に役立つ建築を、卒業以来描いてきた私にとって、また良い出会いとなる楽しみな場です。

母校には、水環境という特殊な研究を続ける鈴木先生がおられます。私は、30歳のときに今のプライベートオフィスを開いてから、私自身の「雨水循環」という個人的な研究テーマを、仕事と切り離すことなく追い求めることができています。それは、卒業以来ずっと先生の御指導をいただきながらのことです。社会に出てからも、大学の先生の教えのもとに充実した仕事ができていることは、この上もない幸せと、感じております。

こうした研究を肥にして、さまざまな技術開発をすすめてきました。その際には大学で生産構法の講義をいただいたことにもずいぶん感謝したものです。

さて、「こんなことに関心を持ちながらデザインを進めてきている」という私の日常について少しだけ披露させていただくことにします。

「建築に地力を抜かれた大地：緑にあふれ、土もふかふかしていることが多いのは、日本の自然の大地の特色である。そうした自然の状態の敷地では、そこに降った雨を、大地が保ち、吸いこみ、また、植物がその水を水蒸気に加工して、空に還しているの、敷地外に流れ出てしまう雨の量は極めて少ない。自然の大



地はそうした地力を持っている。しかし、近代の建物は、大地から、その地力を抜きとってしまった。建物や、建物まわりは、雨を厄介ものとしてすばやく捨てることに熱心であったため、敷地にしみ込むことも、敷地から蒸発散することも極めて少なくなり、多くが敷地外に流れ出し、捨てられている。」

<http://W-RAIN.NET>

シックハウス対応に揺れる住宅業界

安達 攻 部21期)
日経BP社

環境と言っても私がするのは住宅の室内空気環境の話です。

私が普段取材している住宅業界は今、シックハウス問題に端を発した化学物質規制によって、大きな変化にさらされています。

典型的な動きの表れが、この8月1日に改正された住宅性能表示制度。この制度は耐震性、耐久性、省エネなど8項目の物差しから住宅の性能を分かりやすく表示しようというものなのですが、ここに新しくホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの5物質を対象に「完成時に室内の化学物質濃度を測って、それを表示する」という項目が加わりました。

性能表示制度は昨年10月にスタートしたものです。開始後1年もしないうちに、そこに新項目を追加するというのは異例でしょう。そのための法改正も5月中旬の改正案公開から2カ月半で即日施行という超特急のものでした。そのあたりの事情について、制度を所管する国土交通省では「問い合わせも多く、それだけ国民の関心が高いということで実現を急いだ」と説明しています。

一方で厚生労働省からは次から次へと、化学物質の室内濃度指針値が打ち出されています。これまでにホルムアルデヒドをはじめ、10種類以上の物質についての指針値が出ており、同省では2002年までに約50種類の物質についての指針値を定める方針です。

シックハウス訴訟などに詳しい弁護士に意見を聞くと、濃度の計測方法と基準値が公になった以上、今後は係争の場でもそれを基に責任の有無を判断する公算が大きいの見方。つまり、性能表示制度に示された方法で室内化学物質の濃度を測ってそれを指針値以下にすることが、建築基準法の規定を守るのと同じように「どんな形で決着するか分かりませんが、建築基準法による化学物質規制も現実に検討中です」設計者や施工者にとっての義務になりつつあるということです。

住宅の設計者や技術者にとって、有害化学物質を出さない建材選びや濃度測定の見識と、化学物質が出てそれを緩和できる換気のノウハウ、そしてそれらを住まい手にしっかり説明できる言葉や資料の必要性が増していることを、ひしひしと感じています。

性能表示制度に盛り込まれた化学物質濃度測定法の概要

1. 測定対象物質

- ・ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの5種類（濃度実測を行う場合、ホルムアルデヒドは必須でほかは選択制）

2. 空気採取を行う時期と対象居室

- ・採取・測定時期は内装仕上げ工事の完了後
- ・日照が多いなどの理由で測定対象物質の濃度が相対的に高いと見込まれる居室を評価者が選定して測定
- ・対象住宅のすべての窓および扉（収納部分を含む）を開放し30分換気した後、屋外に面する窓および扉を閉鎖し5時間以上維持した状態で空気を採取、測定

3. 測定方法

- ・厚生労働省検討会提示の方法（例：ホルムアルデヒドの場合はDNPH誘導液化による固相吸着、溶媒抽出および高速液体クロマトグラフ法）を標準方法として採用しつつ、同等の信頼性がある、または濃度の過小評価がなされないなどの方法についても、代替採用が可能と位置付ける

4. 表示の内容

- ・物質名称、その濃度と合わせて、測定器具の名称、採取年月日、採取時刻、内装仕上げ工事完了年月日、採取条件（対象居室の名称、採取中の室温、湿度、天候、日照状況、換気状況など）、分析者の氏名または名称も表示する

新企画 現場へGO！（第1回）

気になる現場をOBを頼りに訪問するコーナー「現場へGO！」を不定期連載します。第1回は、民間の市街地再開発としては国内最大規模となる通称「六六開発」へGO。この計画に携わっていらっしゃる、部15期の安田達雄氏（森ビル）を訪ね、プロジェクトのアウトラインをうかがいました。

六本木六丁目地区第一種市街地再開発事業 「六本木ヒルズ」

- 六本木。異邦人が行き交う夜の街 -

六本木通りを、溜池から西麻布方面へ流れて行く途中、アマンド、青山ブックセンター、麻布警察署を過ぎたあたり左手に、それは突然現れる。

2000年4月着工。約11haもの敷地は3つの街区に分けられ、54階建の事務所タワーをメインに、美術館、ホテル、放送センター、劇場、住宅棟、商業施設等が軒を連ねる、複合機能都市となる。

2003年春、竣工予定。



「六本木ヒルズ」案内図

この事業の始まりは15年前である。木造密集地域であったこの地区は1986年11月に東京都から「再開発誘導地区」の指定を受ける。地区内の権利者（約400名）による六本木六丁目地区市街地再開発組合が発足され、再開発実現のために14年もの月日を投じ、昨年4月の着工に至っている。

この計画において特筆すべき点は脱過密である。

「過密に貢献するすべての運動 - 地表を水平に移動する運動 - はビル内部の垂直運動に取って代われ、そしてそこにおいて脱過密化がおこなわれるのである。」（レイモンド フッド）

今まで木造住宅がひしめきあっていた土地に超高層住宅を1棟建てることで、同戸数を収納しても建蔽率が抑えられ、オープンスペースを有効に利用することができるので

ある。そして、住宅のみではなく、オフィスや商業施設、生活において必要なあらゆる機能を組み込むことで、過密の原因となる水平運動が、余裕ある空間を生み出す垂直運動へと変わるのである。

複合機能都市によって通勤時間が短縮され、その時間を余暇にあてることができるようになる。人にゆとりができるということは経済効果にもつながる。また、オープンスペースを緑に変えることで都心におけるヒートアイランド現象をくい止めることができる。ヒートアイランド現象は屋上緑化やビル壁面を植物で覆うことで抑制できるのだ。

この再開発による利点はまだまだあるが、今回の現場訪問で、先を見据えた都市計画がいかに重要であるか、建築物は社会や生活や地球環境、人の精神世界にまでも影響しているということを再認識させられた。この計画を案内して下さった安田さんも学校教育における都市計画学の必要性をおっしゃっていた。

安田さんは現在、森ビル株式会社 広報室上席副参事として活躍されている。本来なら、安田さんにこの記事を書いて頂くことが、「六本木ヒルズ」の様々な魅力やここまでに至った経緯などを、会報の記事として詳細に伝えられる最良の手段であったのだが・・・(汗)。それでも、安田さんは今回のこの現場訪問を快く引き受けて下さった。

現場に隣接している東京日産ビル内のオフィス(このオフィスは某テレビ局のドラマにも使われていた!)で初めてお会いするとあって、とても緊張していたのだが、それを見計らって下さったのか、とても丁寧にこの計画について語って下さった。ビルの屋上にも案内していただき、急ピッチで進んでいる現場の様子を一望することができた。



再開発現場（2001年7月現在）

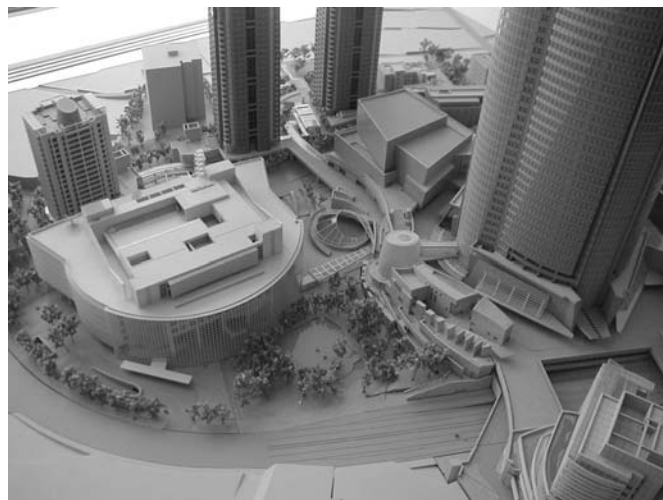


再開現場 (2001年9月現在)

「六本木ヒルズ」そのコンセプトは「文化都心」。

夜のイメージの強い六本木に、人々の一日を通した生活の息づかいが聞こえるようになる(地区内の居住人口は約800人から約2,000人に増加)。そして、美術館、劇場、ホテル、ショッピングモール、公園等が外来者を迎えてくれる。これまで六本木六丁目とは縁の無かった人たちもここに集まるようになる。そこからまた新しい出会いが生まれ、情報交換の場となり、人々の賑わいが生まれ、文化が発信される。

建物をこうすれば魅力ある街になるという定義はない。それぞれの都市の文脈を読んで、後世に残していけるような空間をつくっていくことが現代の社会で建築に携わっている人たちの使命だと思う。



「六本木ヒルズ」完成模型

2002年のオリンピック、ワールドカップに続いて、2003年の春が楽しみとなった。

人生80年と言われるなかで、十数年もの月日かけたプロジェクトが形となって実際に現れる。私が今まで生きてきたうちの約半分の時間だ。総勢400名の権利者がコミュニケーションをとりながら、この土地の最良の答えを模索し、少しばかりの移動ではあるが、自分の土地(大地)から

離れることとなった思いはいかばかりであったらうか。また、これだけのプロジェクトをまとめあげていくことに費やされたエネルギーがどれだけのものだったのだろうかと思うと途方に暮れてしまう。

しかしそれが魅力ある都市へ変貌するとあれば、長い月日やエネルギーを費やした代償がより良い価値となって還元されるのである。

安田さんご本人にもとても興味が湧いたのだが、奥手な私「どちらにお住まいですか」という質問しかできず、取材を終えることとなってしまった。しかし、理科大の頼もしい先輩にお会いできたこと、また、森ビルは目下、表参道の同潤会アパートの再開発計画にも携わっているということなので、いつかまたお会いして、そのお話も聞かせて頂けたらと思う。

地下鉄の駅までの道すがら、「地球規模で考えると、建物を建てるということはそれだけ地球の表面積を増やしているということなんだ。だから人間は地球の表面積が増えた分の、いやそれ以上の責任を環境に対して持たなくてはならないな。人は自然の力がなくては生きていけないのだから。最初に陸地に現れた生物は苔だというし……。それにしても超高層はエレベーターがなければ存在しないものだったのかな? 高層にしたいくてエレベーターができたのか、エレベーターができたから高層になったのか?」などと漠然と考えつつ、真昼の六本木の現場を後にした。



「六本木ヒルズ」完成模型

「六本木ヒルズ」に関して詳細をお知りになりたい方は森ビル株式会社のホームページをご覧ください。

URL <http://www.mori.co.jp>

副会長就任挨拶

森本 仁 (部1期)

鉄建建設(株)エンジニアリング本部 技術研究所

卒業して35年になり、後1年で60歳の還暦定年となります。

卒業後1期生の仲間で同窓会をスタートさせ、初代福島会長のもとに同窓会を築理会として、築理会費を支払うという行為で同窓会に参加をしてきました。

昨年までの卒業生も1部3764名、2部1731名程にもなり社会で大きく活躍ができるまでになりました。ネットワーク社会の中で、理科大建築学科の縦横のつながりである築理会を通じて広く社会に貢献できる事が益々多くなっております。

しかし、残念なことに、築理会費を納めている卒業生は1部340名、2部90名程度で、1割以下の会員しか築理会活動への協力が有りません。(URL <http://www.chikurikai.org>)

築理会活動の実務は3期の大岩事務局長以下幹事の方々にお世話になりっぱなしで、会員の会費納入は停滞しております。これから築理会の組織についてはゼロから勉強させて頂き、野々村会長に協力をして、築理会の発展に少しでも寄与できればと思っております。

築理会・野田建築会の交流会開催

6月1日理窓会館にて築理会と野田建築会の常任幹事の交流会が開催されました。

昨年度築理会報2000夏号においても、築理会の野々村俊夫会長、坂下誠企画総務委員長が理工学部OB組織「野田建築会」の懇親会に出席した記事を掲載していますが、今回はそれに続く交流会となりました。

野田建築会からは立見栄司会長をはじめ、7名の幹事に参加頂き、それぞれのOB会の運営状況の情報交換をしました。

両会の交流を深めていくため、まず最初にOB名簿の一本化からコストも含めて検討を始めました。順調に行けば、来年度のOB名簿は築理会と野田建築会の合同名簿が出来上がるようになります。乞うご期待！ (情報委員長=塚田敏彦、部16期)



築理会総会・懇親会の報告

初夏の陽気を思わせる快晴の5月12日、平成13年築理会総会・懇親会が神楽坂の理窓会館で行われました。

総会では寺林成子副会長(2部1期卒)の司会進行のもと、野々村俊夫会長(1部1期卒)の挨拶に引き続き、議事に移りました。第1号議案から第4号議案まで出席者の満場一致によりすべての議案が承認、可決いたしました。なお今年度の新役員は次の方々に決定いたしました。

- 会長 野々村俊夫(1部1期卒)再任
- 副会長 八木 嘉也(1部3期卒)再任
- 副会長 寺林 成子(2部1期卒)再任
- 副会長 森本 仁(1部1期卒)新任

総会に引き続き、会場を移して懇親会が開催されました。参加者は28名でした。大学からは来賓として、平野先生、真鍋先生のご出席を頂き、また、理工学部建築学科のOB会組織である野田建築会から、立見栄司会長、菊地利武副会長のお二人のご出席をいただきました。

会場では大学での思い出話、近況報告や仕事の話、野田建築会との今後の交流について等々、あちこちに話の輪が広がり、時間はあっという間に過ぎていき、八木副会長の手締めで夕方6時過ぎにお開きとなりました。今年は2次会をゆっくりやれるように、とのことから総会の開始を4時にしました。その甲斐あってか、懇親会終了後は三々五々連れ立って2次会に向かった方が多かったようです。充実したひとときを過ごせたのではないのでしょうか。参加して頂いた皆様、ありがとうございました。

(企画総務委員長=坂下誠、部2期)



全国130校・650常備教室。建築関連資格教育のパイオニア

日建学院

受講生受付中

厚生労働大臣指定講座
1・2級建築士講座
(全18講座)

教育訓練給付金制度有
30万円(上限)が支給
されます。

※支給要件がありますので、必ず最新の
日建学院へお問い合わせ下さい。

案内書無料請求

1級・2級建築士合格者
208,557名を輩出!
(23年間の実績)

データに裏付けされた
確かな「実績」にそが
真の「実力者」を生む!

株式会社 **建築資料研究社** **日建学院**

東京都豊島区東池袋1-21-16 日建学院ビル7F

フリーダイヤル 0120-243-229

Homepage <http://www.ksknet.co.jp/nikken/>
E-mail: nikken@ksknet.co.jp

1・2級建築士
合格率業界No.1!

1級建築士

63.2%

2級建築士

56.2%

建設関連資格の王様とも
言える1・2級建築士。
日建学院が誇る業界トッ
プの伝統と実績で、合格ま
でを強力にサポートします。

※昨年度実績 合格者占有率

連載 研究室紹介(第5回)

研究室紹介、第5回目です。日常大学から疎遠になりがちなOBの方々に理科大の今を知ってもらうため、現在どんな研究をしているのか等、研究室内から記事を寄せて頂くコーナーです。

今回は直井研です。どうぞお楽しみ下さい。

直井研究室紹介

直井研究室は、9号館11階にある建築計画系(構法計画)の研究室です。研究室としての歴史は長く、本年度で22年を数えます。その間、建築人間工学という分野において、様々な研究が行われ、卒業生も300人近い人数を数える程になっています。

直井研究室の現在

現在、直井研究室には、先生、助手、研究生1名、大学院生8名、学部生13名の計24名が在籍しています。毎週金曜日はゼミの日で、1週間の内、研究室の24名全員が集まるという日です。普段は先生、助手、大学院生は比較的研究室にいることが多いのですが、学部生に関しては二部の研究室、及び二部の学生という特性からか、夕方から研究室に来る方が多く、また各班ごとに研究を進めている都合上、全員が集まるというのは、このゼミの時となることが多いので、研究室としては、金曜日が一番賑やかな日でもあります。

研究テーマ

階段から転落する事故や床で滑って転倒する事故など、建物内で生じる日常生活上のさまざまな事故を総称して日常災害と称します。この日常災害の防止対策を、人間工学的な手法を用いて解明することが、本研究室の研究の柱となっています。また、このような日常的な安全性の問題だけでなく、建物の使いやすさ・機能性などを、同じく人間工学的手法により追及する研究なども行っています。いずれの研究でも、弱者とされる幼児や高齢者が焦点となることが多く、その意味では、幼児や高齢者にとっての安全で使いやすい建物の研究ということもできます。

最近の研究テーマの例として、昨年度の修士論文のタイトルを紹介いたします。

- ・ガラス壁面を構成するフレームの透視性状に関する実験研究
- ・エレベーター・エスカレーターにかかわる事故の実態に関する調査研究

- ・介助型車椅子の移動操作における必要通路寸法及び習熟効果に関する実験研究
- ・防災計画書に見る最近の避難計画の実態に関する調査研究
- ・段差歩行時の身体負担に関する実験研究

研究の進め方

研究のスタイルは、院生に学部の卒研究生が付き共に協力し、1つのテーマについて研究を進めていくというものです。現在は、前記の通り、学生としては22名が在籍しており、研究チームとしては、9チームに分かれて、各々の研究テーマの下、日々取り組んでいます。院生と卒研究生が研究について、各々がどう進めて行くかを考え、それを持ち寄り、直井先生のご指導の下、研究が進められていきます。院生が先頭に立ち、共に研究を進めて行く。受け身の教育ではなく、それぞれが参加することによって、初めて研究として成り立つ。学生にとって共同作業を実感できる場となっています。また、こうして学生の共同作業によって得られた研究成果は、大学の卒業研究発表会のみならず、日本建築学会大会、日本インテリア学会大会でも発表しています。

研究室の様子

直井研究室は、日々、とても和やかな雰囲気の中で研究が進められていきます。研究だけではなく、時にはお酒を飲みながら、親睦を深めて行くこともあります。研究室の行事も多く、研究室新人歓迎会、恒例となっている夏合宿、謝恩会兼OB会等があります。特に、夏合宿は研究室のほとんどの方が参加するので、テニスなどをしつつ、ゼミ以外で親睦を深める良い機会となっています。

以上、直井研究室の紹介でした。歴代の直井研究室のOBの方々のご連絡・ご訪問を心よりお待ちしております。(助手: 矢島 規雄)



2000年度ゼミ合宿(長野県白馬)にて

●建築・インテリアデザイナーのためのCAD講座

K&Y CADスクール

- 入学随時
- 見学可
- 体験授業有
- 学生割引有

実技はすべてCADを使っている課題制作です。修了・卒業制作のプレゼンテーション制作に必須。建築・インテリア業界は今やデジタルプレゼンテーションが主流。

- VectorWorks基礎コース
- アーキテクチュアコース
- VectorWorks 3DCGコース
- Shade 3D Proコース

お問い合わせ 資料請求は

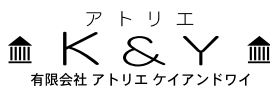
TEL 03-5358-1351 FAX 03-5358-1352
http://www.kandy.ne.jp/

使用ソフト
VectorWorks
RenderWorks
Photoshop
Shade

K&Y CAD SCHOOL

〒151-0053 東京都渋谷区代々木
1-13-9 アンクロイワ502

※JR・大江戸線代々木駅より徒歩3分
小田急線南新宿駅より徒歩2分



弊社は、「築理会会報」「築理会名簿」の広告取り扱いをしております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

建築専門

広告代理店 **株式会社 建報社**

代表取締役 一文字 俊雄

本社: 〒113-0034 東京都文京区湯島2-30-8

TEL: 03-3818-1961 FAX: 03-3818-1968

支社: 〒541-0047 大阪市中央区淡路町1-4-9 昭栄ビル

TEL: 06-6231-4548 FAX: 06-6227-0268

インフォメーション

築理会サークル活動のお知らせ

この度、築理会事業委員会では会員の親睦をふかめるため10月からサークル活動を始めることにしました。皆様の参加をお待ちしております。詳しくは各担当に直接お問い合わせ下さい。

1. 写真同好会：大岩昭之(1部3期)
写真好きの方、写真展(下記)開催中に集まりませんか
E-Mail: teru@rs.kagu.sut.ac.jp
2. 探索街歩き同好会：五十嵐真人(2部8期)
ワクワクできる街歩きをしましょう
E-Mail: martvoice@hotmail.com
3. 登山同好会：市川尚紀(1部28期)
近くの山で休日を楽しみましょう
E-Mail: ichikawa@rs.kagu.sut.ac.jp
4. ジョギング同好会：入野公男(1部15期)
運動不足とストレスを解消し、美味しいお酒を飲みましょう
E-Mail: Kimio_Irino@haseko.co.jp

FAXでお問い合わせの方は築理会FAXをご利用下さい。会員の皆様で楽しい企画があれば築理会FAXまでご連絡下さい。

大岩昭之写真展

「チベット建築巡礼 1996～2000」

日時：11/22～11/28

10:30～19:00(最終日16:00まで)

場所：ドイフォトギャラリー

有楽町2-10-1 東京交通会館B1

tel: 03-5220-6620

「編集後記」

この号から、新たに「現場へGO!」という不定期連載を開始します。リポーターは会報委員会の紅一点である大野紋子さんに務めてもらいます。不況続きとはいえ、都心では、まだまだ大型開発が目立っており、その代表格とも言える六六開発にお邪魔しました。わが現場にもぜひ大野さんに来てほしいと思われるOBの方からの情報をお待ちしております。

(森 清=smori@nikkeibp.co.jp)

築理会報2001夏号

2001年8月発行 Vol.29

発行所：東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部 部建築学科

築理会事務局 03-3260-4271(内3293)

03-3235-6897(FAX)

編集長：森 清

編集委員：広谷純弘、伊藤学、伊谷峰、安達功、千田猛、
諸岡伸幸、中川信浩、平賀一浩、大野紋子

印刷発送：グローバルシステム株式会社

平成13年会費納入のお願い

現在、平成13年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500円

加入者名 築理会

口座番号 00110-5-171952

募集します！

会報委員会では、築理会報の各コーナーへの記事を募集しています。どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽しい旅行記、その他の記事・情報、また、はみだしチクリにもどんどんお寄せください。築理会あてFAX若しくは電子メールにてお知らせください。

データ確認カード返送のお願い

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さいませお願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先：築理会事務局 名簿作成委員会

(FAX: 03-3235-6897)

築理会員データ確認カード		記入日: 20 / /	
ふりがな:		卒業年	年3月
名前:	(旧姓)	(期	研)
		<input type="checkbox"/> I部	<input type="checkbox"/> II部
ふりがな/勤務先:			
ふりがな/部署・役職:		TEL	
		FAX	
電子mail:			
現住所: (〒)			
TEL		FAX	
電子mail:			
現住所以外の安定的な連絡先, 具体的な連絡方法及びTEL:			
所属学会		<input type="checkbox"/> 日本建築学会	<input type="checkbox"/> ()
<input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> ()
通信欄			

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。